

第41回研究会プログラム

日時:2014年11月8日(土曜日)

場所:大阪商工会議所 7階 国際会議ホール

当番幹事:西田 崇

メインテーマ:腹部～撮影×診断×治療～

内容:急性腹症を中心に、撮影プロトコールから治療に役立つVolume Dataの活用法、

そして、それらから診断し、治療へ結び付けられる内容へ

総合司会:島田 真氏

13:30～13:45:情報提供(15分)

演題:肝動脈塞栓材料ディーシービーズについて

演者:エーザイ株式会社 大阪統括部 森川 由雄先生

13:45～13:50:当番幹事挨拶(5分)

13:50～14:20 フレッシュヤーズセミナー(30分)

講師:大阪府立急性期・総合医療センター 中 智章先生

演題名:ポジショニングから考えるアーチファクト対策

座長:三浦 やよい

コメント:アーチファクト対策になりうるソフトウェアの活用法や、ポジショニングの方
法を再度考察し、有用性や使い方について述べる

14:20～14:50 メーカー講演(30分)

講師:Siemens社 PACS/読影システム担当 上岡 由典先生

演題名:読影支援システム”syngo.via”によるワークフローの最適化

座長:医真会八尾総合病院 星野 貴志

コメント: 読影支援システム’syngo.via’は、任意の設定に基づいた解析処理を自動的に準備し、PACS等との連携で読影をサポートします。症例毎に最適化したワークフロー機能を紹介する。

14:50～15:40 基礎講演(50分)

講師:北里大学病院 黒澤 靖之先生

演題名:『腹部CT撮影のプロトコール構築』－なぜ？疑問から見える撮影プロトコールの意味－

座長:大阪市立総合医療センター 寺川 彰一

コメント:急性腹症は非常に幅広く、必要に応じた撮影プロトコールを構築することが望

まれる、そこで疑問点から考えた撮影パラメータの意味を踏まえて講演する
15:40～16:00 休憩(20分)

16:00～16:50 教育講演(50分)

講師:国立病院機構災害医療センター 中央放射線部 田中 善啓先生

演題名:急性期疾患における治療に役立つ画像提供の考え方

座長:大阪府立精神医療センター 田邊 智晴

コメント:疾患に応じた収集データを診断から治療へ CT volume Data を生かす方法について解説する

16:50～17:50 特別講演(60分)

講師:奈良医科大学附属病院 放射線科 高濱潤子先生

演題名:「急性腹症の CT を攻略する-放射線診断医から技師に求めるもの」

座長:大阪府立急性期・総合医療センター 西田 崇

コメント:本公演では広い疾患スペクトラムを撮影者側が理解し、より適切な撮影を可能とすることを目的とする

17:50～17:55 閉会挨拶 福西代表